

令和2年度 第2回総合教育会議 会議録

日時 令和3年3月19日（金）午後1時30分～2時30分
場所 市役所本館6階 講堂
出席者 新潟市長
 中原 八一
 教育委員会
 教育長
 前田 秀子
 教育委員
 田中 賢一、渡邊 節子、山倉 茂美、小野沢 裕子
 市嶋 洋介、渡邊 純子、大宮 一真、五十嵐 悠介

事務局出席者 市長部局
 政策企画部長 三富 健二郎、政策調整課 課長補佐 竹田 彰
 教育委員会事務局
 教育次長 池田 浩、古俣 泰規、教育総務課長 渡辺 和則
関係課等出席者 教育委員会事務局
 学校支援課長 山田 哲哉

議 題

「GIGAスクール構想に基づくこれからの新潟市の教育」

開会

○司会 (政策企画部長)

これより、今年度第2回目の総合教育会議を開催したいと思います。

本日は大変ご多用のところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

冒頭の司会進行役を務めさせていただきます、政策企画部長の三富と申します。よろしくお願いいたします。

本日の議題になりますが、皆様の前にあるタブレット端末の画面にも出ておりますように、「G I G Aスクール構想に基づくこれからの新潟市の教育」と題して開催させていただきたいと思っております。4月以降に本格導入されますG I G Aスクール構想の取組の状況や今後の取組を共有するという機会とさせていただければと思っております。

それでは、これからの議事進行につきましては、中原市長よりお願いしたいと思います。

議題

○市 長

本日は、第2回新潟市総合教育会議ということで、間も無く新年度ですけれども、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

それでは、早速議事に入らせていただきます。

「G I G Aスクール構想に基づくこれからの新潟市の教育」に関してまずは事務局から説明をお願いします。

○事務局 (学校支援課長)

学校支援課の山田哲哉と申します。よろしくお願いいたします。

「G I G Aスクール構想に基づくこれからの新潟市の教育」につきまして、関係課を代表いたしまして、学校支援課から説明申し上げます。

大型画面にも資料が映りますけれども、皆様のお手元のタブレット端末でもページをめくっていくと該当のページをご覧くださいいただけますので、よろしくお願いいたします。

2ページ目でございます。はじめに、新潟市がG I G Aスクール構想で目指すものについて、お話しします。

3ページです。令和2年度より、第4期に入った新潟市教育ビジョンでは、これからの社会をたくましく生き抜く力の育成を掲げております。その力の育成に向かうために、G I G Aスクール環境を活かす授業を行ってまいります。

4ページです。具体的には、①から③のような子どもの姿を目指して授業づくりをしていきます。特に、これまでの授業と大きく変わるところは、③の赤字部分です。「情報活用能力を育みながらICTを活用して学びを深める子ども」というところでございます。

5 ページです。そのために、本市では、どの子どもも使いやすい端末として i P a d を選びました。子どもも、先生方からも使いやすいと大変好評です。この端末の機能とアプリケーション、クラウドを活用したアウトプット型の授業に変わります。高速ネットワーク網も段階的に整備してまいります。

6 ページです。具体的に、授業はどう変わるのでしょうか。二つの例でご説明申し上げます。

7 ページ。まずは、小学校 6 年生の体育で説明いたします。小学校 6 年体育「動きを改善しよう」です。

8 ページです。こちらは、器械運動の授業の様子です。子どもは一人一人 i P a d を持って体育館に向かいます。教師から i P a d へお手本動画が送られます。子どもは、それを巻き戻したりスロー再生したりして、より良い動きのイメージをつかみます。

次です。そして、実際に器械運動に取り組みます。これまでの授業と違うのは、友達と動画を撮り合うことです。どこから撮影すると動きの様子がよく分かるかなどを考えながら、友達のために動画を撮ります。

10 ページです。みんなで動画を見返して、動きを改善するための方法を考えます。自分の動きを客観的に見ながら、友達のアドバイスをもらうことで、より良い動きができるようになります。

11 ページです。そして、動きを改善する方法を試す活動を行います。このようなことを繰り返していくことで、協働的により良い動きに高め合っていくのです。

これが、I C T を活用しながら行う、これからの協働的で深い学びの一例でございます。

動画を映します。子どもたちは、撮影し、早速、見合っています。

12 ページです。二つ目の実践例です。今度は、小学校 3 年国語の実践例です。これは、教室の中でのいわゆる座学の授業がどう変わるかということです。

13 ページです。まず、授業支援アプリケーションの「ロイロノート・スクール」で学校の自慢をカードに書き込んでいきます。これは、すべての子どもたちの端末に入っているアプリですけれども、指で書いていますが、いわゆる付箋紙のようなものをデジタル上で行えるということです。

14 ページです。次に、書き出したたくさんの自慢を、友達とすぐに共有して、アプリの思考ツールを使って整理していきます。並べ替えなどがすぐできるのです。

15 ページです。そして、グループの友達と考えを伝え合って、どのように自慢を伝えるかを決めて、プレゼンテーションのスラ

イドを作成します。ご覧の16ページのグループは、「おいしい給食が自慢」とまとめました。そして、大型テレビに映しながらプレゼンテーションを行いました。

これが「情報活用能力を育みながら、ICTを活用して学びを深める子どもの姿」でございます。

17ページ。デジタル教科書活用予定と書いてありますが、教育のデジタル化は今後進んでまいります。教科書もデジタル化されていく予定です。

18ページです。来年度、令和3年度から新潟市でも国の実証研究事業を活用し、約半数の学校の小学校5年生以上と中学生が1教科でデジタル教科書を活用いたします。

令和4年度と令和5年度には、対象の学校や学年、教科が拡張され、令和6年度からは全ての教科書がデジタル化される予定でございます。このように、教育のデジタル化はどんどん進んでいくのです。

19ページ。では、学校外での学びはどのように変わのでしょうか。

20ページです。GIGAスクール構想では、端末を家庭に持ち帰って使うことになっております。すでに、本市でも3割ほどの学校が持ち帰りを始めております。また、学童保育にも来年度、Wi-Fiが整備され、インターネットにつないだドリル学習もできるようになります。

学校でも家庭でも使えるドリルアプリは、国語、算数、数学、理科、社会、英語があり、紙のドリルよりも多くの教科に対応しております。

次のページ、22ページですが、アプリが採点をしてくれまして、苦手な問題だけを繰り返して練習することもできます。また、苦手な学習に戻るなど、自分のペースでも学習することができます。

最後に、今後の「教育委員会の取組」についてお話しをいたします。

24ページです。ご覧のように、教室だけではなく、家庭や世界へとつながった学習ができる環境へと大きく変わっていきます。ネットワークは、令和3年度に回線の利用状況調査や整備を行い、段階的に環境を構築し、端末を活用した授業を日常的に実施できるようにしてまいります。

また、ICT支援員の配置や、支援ポータルサイトの運用により、先生方が無理なく対応できるように支援してまいります。

25ページです。すでにご承知のように、GIGAスクール構想の加速により、全ての小学校、中学校、中等教育学校、特別支援学校に通うすべての児童、生徒に、一人一台端末がすでに貸与さ

れ、それを活用した授業が展開され始めております。市民の皆さんの関心も高まっていることから、市報にいがた等で広報するなど、あらゆる機会を活用して、市民の皆様に周知を行ってまいります。

ご覧いただいている 26 ページの画面は、新潟市G I G A宣言でございます。ここに示してあるような姿が、全市の全ての児童、生徒に実現し、これからの時代をたくましく生き抜く力を育成するように、教育委員会一丸となってG I G Aスクールを推進してまいります。

最後になりますが、タブレット端末を利用しながら学習する子どもたちの様子をモニターでご覧いただきたいと思います。しばらくお待ち下さい。こちらは、テレビで放映されたものですが、放送局の許可を得て流させていただきます。

(動画)

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

○市 長

説明、ありがとうございました。

皆さん、ご承知のように、近年グローバル化や先端技術の進展などに伴い、社会構造の大きな変化に伴って、子どもたちの抱える背景や、子どもたちを取り巻く環境も多様化しています。凶らずも、昨年、新型コロナウイルス感染が拡大し、全国一斉休校の措置が取られました。こうしたことから、国からは、学校の臨時休業など、緊急時でも I C Tを活用して子どもたちの学びを補償できる環境を、早急に実現するよう求めています。

そうした中、本市では、新潟市G I G Aスクール構想に基づき、来年度から I C Tを活用した教育を本格的にスタートいたします。これにより、子どもたちの学びは大きく変わっていくものと思います。今ほど事務局からご説明がありましたように、例えば体育の授業では、I C Tを活用し、子どもたちが自分自身や、友達の動きに関するデータの分析や検討を行うことで、客観的に自らの動きを理解し、新たなチャレンジにつなげることができるようになります。

学校は、これまでの教えられる場ではなく、自ら学ぶところに変わっていくものと思います。そのため、子どもたちが自らの学習スタイルに合った学びや、主体的な学びを行うことができる環境を整備することが重要になると考えています。こうしたことについて、教育委員の皆様のご考えをお聞きしたいと考えております。

G I G Aスクールパイロット校を視察し、子どもたちや学校の様子をご覧になったと聞いておりますので、そうしたことも含めまして、皆様からご意見を伺えればと思います。

○山倉委員

お願いします。山倉です。

私も、自分自身があまり詳しくないので、本当に見た感想ということをお願いいたします。

小学校を視察したり、地元の中学校でタブレット端末を使用した授業を見学させていただく機会がありました。子どもたちは、とても上手に使っておいりましたし、また、分からない子どもたちに対して、子ども同士で教え合っているという姿も見ることができました。また、私の孫にも聞きますと、タブレット端末を使うこと自体が楽しいと言っていましたので、子どもたちは楽しみながら使っているのではないかと思います。

文字だけでは理解できないことも、やはり動画などを見ることで、目や耳から情報が入ってきて理解しやすいのかなと思いますし、楽しく学ぶことができるのではないかと思います。

授業中、手を挙げる子というのは限られてくるのですが、やはり手を挙げるのが苦手な子も、タブレット端末で自分の意見を伝えることで、積極的に授業に参加できるのではないかと思います。

いろいろな先生に話を聞くことがあって、タブレット端末の操作が得意な先生は、大丈夫だよ、と言っていたのですが、やはり私のように年齢が上の先生は、ついていくのに大変だ、とおっしゃっていた方もいらっしゃいました。

やはり、子どもたちに教える先生がどう対応していくのかということに対してサポートしていくのが大事だと思いました。

あと一つ気になっていることがあって、インターネットを使うと、分からないことはすぐ答えが出てきてしまいますよね。そういう時に、自分の頭でじっくりと考えると、想像することが減り、想像力が弱くなってしまわないかということをし心配しているところです。しかし、まずは、いろいろと使って、タブレットに慣れていくというのが大切なのではないかと思っています。

ありがとうございました。

続きまして、田中委員、お願いします。

今ほど、実際の授業でのタブレット端末の活用の仕方というのが紹介されていたのですが、私も、以前教壇に立っていた時に、目の前に35人の子どもたちがいたのですが、その中で誰がどこでつまづいているのか、あるいはどこまで理解しているのかということが、ぱっと分かるような良い方法はないかということ、常々考えておいりました。

それが、GIGAスクール構想では、タブレット端末を使って可能になっていく。本当に大きな転換だと思うのです。35人の子どもたちの学びの様子とか、あるいはつまづきなどを教師が的確に把握して、一人一人の子どもに合った個別指導を行うとか、あるいは発展問題に取り組ませるといったような形で、一斉学習の中

○市長

○田中委員

における個別最適化の学習ということが、今後可能になっていくと思っています。

また、学校外におきましても、先ほども説明がありましたけれども、家庭学習を重視させるためにいろいろな活用の仕方を考えるわけですけれども、先ほど市長が言われたように、子どもが自分自身で、ゴールまでの道筋というものを選択して、その子に一番ぴったりの学習過程を編成していくということができるようになっていくのではないかと思います。

これは、まさに今までなかった、新たな学びのスタイルという形になっていくのではないかと思います。

さらに、より能力の高い子どもには、居ながらにして、例えばプラチナ未来人材育成塾というものがあるのですけれども、そういうところに、どんどん積極的に参加するというような形で、一人一人の子どもの特性が活かされた、そういう新たな学びが展開されていくのだらうと思っています。

GIGAスクール構想には、本当にさまざまな可能性が秘められていると思ひまして、新潟市の教育をより大きく発展させる重要な契機になるのではないかと思います。

○市長

ありがとうございます。

小野沢委員、お願いします。

○小野沢委員

小野沢です。よろしくお願いします。

私も、体育の授業と国語の授業を見せてもらいました。体育の授業のときに、子どもたちが開脚前転の成功事例としてはどういうところがポイントかというようなことを話し合いながら、お互いに撮影して、一番いいものを先生に提出するのです。先生方は授業中に全員が一斉にマットの上でやっているものを見るわけにはいかないのですが、動画が先生に提出されることによって、時間があるときにみんなの様子を見ることができるということで、とてもいいなと思ひました。その反面、できなかったことができるようになったときに、先生と目が合うとか、自分がうまくいかなかったことがうまくいって、くるんと回れて、すっと立ち上がった時に、ぱっと先生と目が合ったという、そういう、やったなというような、実際に先生が見てくれるのだというようなところも、子どもたちにとっては、とても励みになると思うので、タブレット端末を使ってみんなで撮影し合って、いい方法を見付けていきたいと思いますというのには、確かに、協力するし、良いことなのですが、かかわる先生方が実際立ち会っているところの熱量を、子どもたちに伝えてほしいと思ひます。

それから、国語の授業のときに、あるテーマがあって、みんなそれぞれ、自分の意見を記入していくのですが、お友達の意見も参考にすることができて、それを見て、どんどん上書きしていく

のです。そうすると、自分が最初に感じたことは何だったのか、そして、そこからどう変わっていったのかということがはっきりしないままに、結果だけがみんなに提出されて、それがみんなの目に触れるというのは、その子自身がどういう経緯で、どういうふうに考えていったのかというのが見えなくなってしまうのがちょっと怖いというところがあります。

亡くなられた篠田桃紅さんという書の美術家の方が、「日本の墨の文化と油絵の文化は違って、墨はいくら書いてもそこに過去が見えるのです。油絵は、全部白く塗ってしまった上に描くから、その前に何を描いていたか分からないのですよ。」とおっしゃっていました。そういった子どもたちの学びの経過というのが、タブレット端末の中で、最終的に発せられたものだけにならないように、何か工夫をしてもらえたらなと思っています。

また、家に持ち帰るようになると、インターネット環境によって、子どもたちの学びの時間が変わってくるというようなことがないように、フォローしてもらえたらいいと思います。

○市 長

ありがとうございました。

市嶋委員、お願いします。

○市嶋委員

よろしく願いいたします。市嶋と申します。

私も、GIGAスクール構想の中でのタブレット端末を使った授業を以前から本当に期待をしておりました。私も子どもがいますけれども、いよいよ始まったということで、本当に楽しみにしている部分もございます。

その中で、先ほど市長がおっしゃいました、主体的な学びということで、子どもが楽しみながら自分から学びに向かう姿勢が高まっていき、子どもに合った主体的な学びができていくのではないかと、家庭で子どもが楽しそうにタブレット端末を使っている姿を見て感じています。

大人の社会でも、プレゼンテーションをすとか、契約するとか、いろいろなところで、タブレット端末を使えないということが、仕事に支障が出るくらいの社会になってきていますので、子どもたちが社会人になるときに苦手な人がいなくなるという状態になっていくという意味では、本当にこれから社会に出ていく中でも、非常に役立つ部分かなとも思っています。

一方で、タブレット端末を使うことは、会社で私もやっていると思うのですが、どうしても記述するということが減るので、そうすると、自分で何か書いて、何か考えるということが減ってしまって、先ほど山倉委員も言うておられましたけれども、考える力というのが、少し減っていくのではないかと思います。検索するとすぐ答えが出てしまうので、今の子は答えを探すのがものすごく上手なのです。ただ、その答えを導き出す過程と

いうものを大事にしてほしいということで、早く答えにたどり着くのが本当に良いのか、それとも教えるべきことはそうではない過程の部分なのかというところをしっかりと見極めるような教育が必要なのではないかと感じました。

間違ふということは、子どもにとって、本当に大事なことで、正しい答えを出すということよりも、どう間違ったかということ、先生や周りの大人がしっかりと見てあげて、その間違え方をタブレット端末でどのように気付けるのかということ、工夫次第だとは思いますが、しっかりと教育に活かしてもらえようような指導をしていけるような使い方を、先生方にも工夫していただけたらと思います。

そのためには、目的に合わせてタブレット端末を使って何を教えたいのか、とか、タブレット端末が本当に指導や内容に合っているのかどうかということで、タブレット端末だけに傾倒するのではなくて、目的に合わせて、ときには紙と使い分けていくということが大事なのではないかと思います。

最後に、ここから数年は、タブレット端末のいいところと、皆さんがおっしゃったような心配になる部分が、どんなふうに子どもに影響を与えるのかということ、調査というか、統計を取る数年間になっていくと思いますので、しっかりと先生方や保護者の方の意見を収集していただいて、良い方向に進んでほしいと非常に期待しています。よろしくお願ひします。

○市長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

渡邊委員、お願ひします。

○渡邊（節）委員

私も、パイロット校での視察を通して、自分が考えていたものと全く違う使い方があるのだなということを知りました。

ロイロノートというアプリを使って、自分の考えを整理して、みんなでやり取りして発表するというようなものを見せてもらい、とてもみんなが楽しそうに、使い慣れている感じでやることがよく分かりました。ちゃんとコミュニケーションを取りながらできるのだなということも、見ていて実感しました。そのような中で、自信がないと、自分の考えをいろいろまとめて、みんなの前で発表するというのは、誰にとっても難しいと思うのですが、発表する前の段階の、ぼんぼんと浮かんだ、自分の中のいくつものいろいろな考えというものを、そのアプリの中で書くことができ、表現して、それをほかの子どもたちとリアルタイムで共有できるという、今までと全く違う考えの出し方とコミュニケーションの仕方なのだということを見せてもらって感じました。

これによって、自分の考えを声に出しづらいうちの子さんも、とても表現しやすくなり、クラスの中での考えの多様性が増えていくというところに、大変可能性を感じました。このようなことは、

実際に授業の様子を見せてもらわないとなかなか分からないので、授業参観のような機会に各学校で保護者の方にも見ていただいてどんどん理解していただけると良いと感じました。

もう一つは、視察の中ではないのですが、先ほど田中委員も言われていた、自分のペースで学習できるということがとても大切で、私は大きな期待をもっています。特に、算数、数学や英語は、積み重ねのところで分からなくなっているとどうしても次に進めないということがあり、家庭学習だけではなく、授業の中でも、基礎的なところを繰り返してやる人と、もう少し発展のところも取り組むということが、タブレット端末のおかげでとてもやりやすく、先生がそれぞれの子どもがどんなふうにしていたかというのも見やすいと思うので、そのような活用も、是非進めていただきたいと思いました。

そのときに、隣の子と進み方が違うとか、お互い引け目に感じないような雰囲気ができるといいと思います。そのためには、先生や保護者がほかの子どもの進み具合を比較しないということや、自分に合った学びをやっていくことが大事、ということや、メッセージとして伝えながらやっていただけたらいいなと感じています。以上です。

○市 長

ありがとうございました。渡邊純子委員、お願いします。

○渡邊（純）委員

私も、学校に視察に行ったときの印象を述べようと思っていたのですが、ほかの委員の方たちがおっしゃったことと同様にタブレット端末を活用するということが、すごく革新的というか、これからの子どもたちには必要なのだと実感しました。

その中で、たまたま今年はコロナ禍という非常事態の中で、こういうものを活用することが子どもの学習を止めないで進めていける一つの道具なのだと実感しました。オンライン授業についても、当初、ほかの学校で早く進めていたところもあった中で、やはり新潟市の子どもたちも、そういう授業に即座に切り替えることができたり、ツールがあるということは大事ではないかと感じました。

保護者の方たちとお話をする機会があったのですが、これを家庭に持ち帰ったときに、どのくらいの時間を要して学習したり、調べ物をするかということで、大変心配している方がいらっしやいました。とても便利ではあるのですが、子どもたちが長い時間使うことによって、身体的なマイナスになることもあるのではないかということも私も心配しました。その辺のところは、学校現場の先生方が注意していただければと思っております。

最後に、市嶋委員もおっしゃっていたのですが、タブレット端末を使った学習指導の効果です。今までの学習との比較、

○市 長

検証をしていただきたいと思いましたが、是非良い活用をして、それで良い結果につながると良いと思っております。

ありがとうございました。そのほかにいかがでしょうか。

今ほど、G I G Aスクールに関する委員の皆様方のさまざまなご意見、感想、また認識をたくさん聞かせていただき、私も大変参考になりました。

その中で、総じて皆さんからはG I G Aスクールに対する期待感、それから新しい学びであるということ、楽しく学べるとか、肯定的なご意見をたくさんいただいた一方で、やはり子どもたちにも保護者の皆さまにも伝えていくべき点、例えば、子どもたちが自分に合ったペースで学んでいけるということや、便利だけでも体に影響がないのか、などということ伝えていくことも大切であるということをお話しいただいたと思っております。

また、じっくり考えることや想像力がタブレット端末を使うことによって欠けるのではないか、というようなお話もいただいたところであります。こうした、保護者にとって不安な点や子どもたちにとって心配な点を、これからの授業の中で、しっかりと伝えていったり、学んでいっていただきたいと思っております。

これからは、一人一人の子どもたちに最適化された学びを目指していきますし、インターネットを通じて社会とのつながり、創造性を育む学びを追求するなど、教育のあり方が大きく変化してまいります。

世の中全体が、I C Tを用いた業務改善を行っている中、学校現場でも来年度からI C T教育による業務の効率化を進めていきます。また、指導方法と指導体制の改善を図り、より一層充実した学習を目指していくと聞いています。

これまで行ってきた学習と、これからのI C Tを活用した学習をうまく融合し、今後、最大の効果を上げていくためには、どのような取組が必要であると、皆さんはお考えでしょうか。さまざまな観点から、教育委員の皆様のご意見を伺えればと思います。よろしく申し上げます。

それでは、大宮委員、お願いします。

○大宮委員

大宮です。よろしく申し上げます。

せっかくG I G Aスクールで、こんな素晴らしいi P a dが各家庭に入るところで、子どもの学びに使うのはもちろんなのですが、ほかに家庭や地域とつながるために、このタブレット端末の活用を、是非お願いしたいと思っております。

簡単に言いますと、家庭とのつながりです。親御さんと学校との連絡をペーパーベースでやっているものを、タブレット端末を使って行ったりとか、または、地域との連携も、子どもたちを見守るスクールサポーターの方々などにタブレット端末を通じてお知

らせるとか、そういった形でタブレット端末をいろいろなところに活用していただければと思います。

そのときにセキュリティの問題もあると思いますので、その部分をしっかりと対応した中で行っていただければと思っておりますので、ご意見としてお伝えしたいと思います。よろしくお願ひします。

○市 長

ありがとうございます。

五十嵐委員、お願ひします。

○五十嵐委員

五十嵐です。よろしくお願ひいたします。

今ほど、大宮委員の方からおっしゃられた内容と重なってしまうのですが、これだけ素晴らしい取組を、学校現場で児童、生徒たちに行うということなのですが、現場の教職員の方々が、教え方をまだよく分からないとか、子どもたちの自由な発想をよく理解できなくて止めてしまうとか、あるいは、ご家庭で親御さんが教え方を分からず今までフォローしていたような教育面のフォローができないというような部分がおそらくデメリットとして出てくるものと思っています。

また、先ほど市嶋委員がおっしゃった、記述式の問題の部分のモデルが少なくなってしまうのではないかというような懸念ですとか、保護者の方々が目が悪くなることを懸念しているという話もありました。

ただ、自動車社会が以前の社会に戻ることができないように、このタブレット端末社会も、もうおそらく以前に戻ることができませんので、とにかく、我々大人が、この流れをポジティブに捉えまして、一つ一つ課題を解消しながら進んでいくしかないと思います。

先ほど、大宮委員がおっしゃられたように、地域と保護者と学校で子どもを育てるわけですから、是非子どもたちが学ぶのではなく、彼らを育む我々大人のほうも、ICTを活用して、子どもたちをより伸ばしていける、そういう体制を、是非作っていきたいと考えておりますので、ご意見として伺っていただければと思います。

○市 長

ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

渡邊委員、お願ひします。

○渡邊（節）委員

GIGAスクール構想を支えるということで、そのときに、一番は学校の先生方がICTを活用するためのスキルを身に付けないといけないということがあり、そのためには、研修も必要ですし、先生方にとっては、最初は時間的な負担もあるであろうと予想されますし、心配しているところでもあります。それについては、教育委員会の多忙化解消の行動計画の中でもありましたが、総合教育センターですとか学校支援課で、ホームページやい

ろいろなデジタルコンテンツを公開しているということで、これからもどんどん充実させて、先生方がアクセスしやすい環境を用意するということがとても大切だと感じています。

一方で、それでも苦手な方はやはり苦手だろうと思います。例えば、私が急にこれをやりなさいと言われたときを想像すると、すごくきついなと思います。そういった個人差があるので苦手な方には、先生方同士の協働というか、助け合いというか、そういったことも、大変大事になってくるのではないかと思います。

特に、導入後の数年、先生方にご負担がないように、まわりでサポートをすることが大切と考えています。以上です。

○市 長

ありがとうございます。

田中委員お願いします。

○田中委員

今ほどの渡邊節子委員と同じような形になるのですけれども、これまで学校といいますと、教科書とノート、鉛筆を使ってプリントに考えを書いたり、ノートにまとめたりというような流れで授業が行われてきたわけですけれども、タブレット端末が入ることによって、本当に大きな授業改革が進んでいくのだらうと思うわけです。

そういったときに、やはり先生方がそのタブレット端末の使い方に十分熟知していく、慣れていくことが大事ですし、あるいは、実際に各学校現場でいろいろな試行がやられていく中からより優れた実践例を、例えば総合教育センターで集約して、先生方が困ったときにすぐそこを見に行ける。そこにはいろいろな手法、いろいろな使い方が示されている。そんなことがうまく作れていったらいいのではないかなと思っております。

今ほど、多忙化の話がありましたけれども、得意な人と不慣れな人というのはやはりいると思うのです。不慣れな人も、うまく使うことによって効果といいますか、うまく子どもたちにこれが使われたという、そういう成功体験を先生方に持っていただきたいと思うのです。そうすることによって、よし、もっと使ってみようと、そういう気持ちになっていくのではないかなと思っています。

それから、これからの子どもたちは、否応なしにICTの環境の中に入っていくことになるわけですけれども、そのときに大事になるのが高い情報モラルであったり、ルールの遵守ということなのだらうと思うわけです。各学校では、今日の説明にもありましたように、GIGA宣言として、子どもたちに指導していくのですけれども、この宣言を、子どもだけでなく、是非、大人バージョンを作って、親子で、あるいは地域で、社会全体で取り組んでいけたら良いと考えています。

大人バージョンは、例えば、私が勝手に考えたのですけれども、

「知識を深め、人生を豊かにするために活用します。それから、他者の気持ちを尊重し、傷付けることは絶対にしません。」これは、とても大事なことだろうと思うのです。今こそ、このG I G Aスクール構想に基づきまして、家庭の教育力であったり、地域の教育力を高める絶好のチャンスだろうと思っています。

是非、市長部局と教育委員会が一体となって、新潟市全体でG I G A宣言都市づくり、こんなものを進めていけたら良いのではないかなと、思っております。

よろしく申し上げます。

○市 長

ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。大変貴重なご意見を数々いただきまして、誠にありがとうございます。

これまでの内容を踏まえて、前田教育長から一言、お願いしたいと思います。

○教育長

本当に、このG I G Aスクール構想による、一人一台端末によって、委員の皆様からお話がありましたけど、これまでみんなが同じ問題に取り組むというような一斉授業から、一人一人に合った問題、課題に、それぞれが取り組む、個別の一斉授業へ変わっていくことも可能になります。

そして、自分に合った学び方をしていくと、主体性が高まり、それがまた自信につながり、学習意欲につながっていくと思います。また、I C Tの活用で、空間的、時間的制約を超えた学びも可能になって、学校内外の人、もの、こととオンラインでつながることもできます。

海外との交流ももちろんですけども、市内の企業や農家など、さまざまな人たちとつながる機会が増えて、これまで以上に本市の魅力を感じ、地域への愛着を育むこともできるようになるとと思っています。

また、さらに増加傾向が続いている不登校児童、生徒をはじめ、学校に来ることのできない児童、生徒の学習支援にも活用することができます。このG I G Aスクール構想の進展というのは、未来の担い手となる子どもたちに必要な資質、能力を育むために、大変有効な、大きな可能性を持ったものだと思います。

ただ、その一方で、委員からもありましたけれども、やはり端末というのは、学習効果を高めるためのツールの一つであって、情報活用能力を高め、それを発揮しながら主体的、対話的で深い学びの実現に向けた学習活動のために活用するのが重要であって、自分で考えること、書くこと、時間をもって学ぶことなど、そういったものとの、しっかりとしたバランスを取らなければならないと思っています。

また、タブレット端末の使用による視力の低下や、ネット依存

が心配だというような保護者の声もございますので、子どもたちの心身の健康への影響や家庭環境による差が出ないようにということにも十分配慮をしていかなければならないと思っています。

新年度から、一人一台端末の活用が本格的に始まりますけれども、導入当初は、特に教職員に過度な負担等ならないようにすることや、また、活用しやすい環境整備を含め、すべての子どもたちが、自らの希望に合った意欲的な学びができるように、教育委員会としてしっかりサポートしていきたいと思っております。以上です。

○市長

ありがとうございました。最後、前田教育長から取りまとめをいただきました。

重ね重ね、本日は教育委員の皆さんから、GIGAスクール構想に基づく、これからの新潟市の教育について、率直なご意見、ご感想、またご提案をいただきまして、感謝を申し上げます。

ICTを活用することにより、一人一人の子どもたちに見合った学習の機会が提供されるとともに、さまざまな人や企業とのつながりから、より創造性を育む教育が行われることが分かりました。

今後も、教育委員会と一緒に未来の新潟市を担う人材育成のために取り組んでまいりたいと考えております。

本日は、ご多忙のところ、誠にありがとうございました。それでは、本日の会議の議題を終了させていただきます。

進行を事務局に返します。

閉会

○司会
(政策企画部長)

本日は、大変活発な意見交換、GIGAスクールに基づいて、これからの教育、広くは地域社会の在り方のようなところまでご議論いただきました。ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第2回総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。